

新 旧県立図書館活用事業（福井子ども歴史文化館整備）について

担当課：教育庁生涯学習課

1 背景

子どもたちが、ふるさとの歴史やゆかりのある先人たちについて学び、親しみを持つことは、福井の未来を担う人づくりにとって重要な意義があります。

現在、旧県立図書館は、埋蔵文化財の調査・研究や、子どもたちへの本の読み聞かせの場として活用されていますが、福井の子どもたちがふるさとの歴史や先人について楽しく学ぶことのできる場を新たに充実し、一層の活用を図っていきます。



由利公正肖像
(「由利公正伝」より)

2 内容

(1) 福井子ども歴史文化館の概要

子どもたちが、自ら進んで福井の歴史や文化、先人の気概などを楽しく学び、知ることができる施設

本年度は、歴史・人物に関する多数の資料を収集するほか、歴史研究の専門家をメンバーとした委員会を開催し、具体的な展示内容などを検討

〔主な展示内容〕

- ・歴史人物 … 福井を代表する先人たちの子どもの頃のエピソードや印象的な場面の再現
- ・白川文字学 … 白川静先生の文字学を体感、学習できる展示 など

(2) 施設の活用の方向性

1階 さくらこども図書室（継続利用）、埋蔵文化財調査センター収蔵庫（継続利用）

2階 歴史人物展示、埋蔵文化財調査センター収蔵庫（継続利用）

3階 白川文字学展示、情報ライブラリー、埋蔵文化財調査センター収蔵庫（継続利用）

(3) スケジュール

平成19年度 展示内容の検討

平成20年度 建築・設備実施設計、展示設計、改修工事、展示工事

平成21年度 搬入、調整、開館

3 予算額 4,700千円

⑧ ポリス・スタンバイ作戦

担当課：警察本部地域課

1 背景

刑法犯認知件数は減少傾向にありますが、街頭における車上ねらいや忍込みについては、なお増加傾向にあります。

これまで、全交番に赤色灯付き白色自転車を配備し、通学路、住宅街等におけるきめ細かなパトロール活動や、主要交差点における街頭監視活動を強化し、治安回復に成果を上げてきました。その一方で、交番の位置がわかりづらいとの声や、パトロールをもっと広範囲で行ってほしいとの声もあります。



赤色灯付白色自転車によるパトロール

2 内容

コンビニエンスストア等と協力し、交番を中心とした安心ゾーンを形成
パトロール活動を強化し、「目に見える警察官」活動を推進

- (1) 交番の位置を分かりやすくするため、交番までの距離、方角を示す「交番位置表示シート」をコンビニエンスストアや公共施設等に掲示
- (2) コンビニ等を駐車拠点として徒歩パトロール活動等を行う際に、活動中であることをお知らせする「パトカー活動表示シート」をパトカーに掲示

なお、「ポリス・スタンバイ作戦」の実施に当たっては、県と包括連携を結んでいる(株)ローソンの全面的協力を得ることとなっています。

3 予算額 3,809千円

新 空港連絡バス・アクセス改善事業 について

新 空港ハイウェイ・アクセス改善事業

担当課：総合政策部総合交通課、土木部高規格道路建設推進課

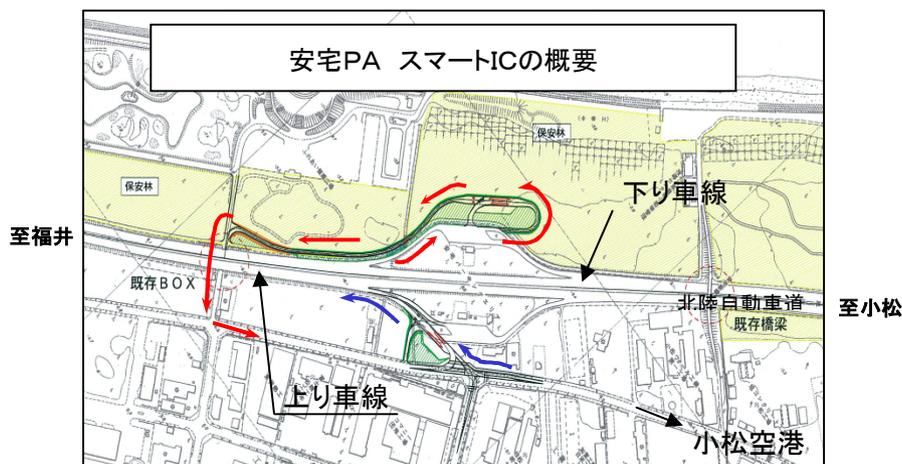
1 背景

小松空港は、福井県民が約18万人、県外から本県へ訪れる人が約20万人、合わせて約38万人が利用する本県の「空の玄関口」です。

福井市中心部から小松空港へのアクセスは、自家用車で約50分であるのに比べ、空港連絡バスでは約70分と時間がかかっています。



本県の「空の玄関口」として小松空港を一層活用しやすくするため、小松空港へのアクセスを改善することが重要です。



2 内容

(1) 空港連絡バス・アクセス改善事業

空港連絡バスの北陸自動車道利用区間を延ばし、所要時間を短縮するように運行経路を変更

バスを利用しやすくするためのパークアンドライド用駐車場を整備

○事業内容

- ・運行経路変更のための経費をバス会社に支援（丸岡IC～片山津IC利用を、福井北IC～安宅PA ETC専用ICに変更）
- ・福井北IC付近でのパークアンドライド用駐車場整備の支援

○改善効果 所要時間最大約15分短縮（安宅IC利用の約5分短縮含む）
（現行約70分 → 約55分）

(2) 空港ハイウェイ・アクセス改善事業

小松空港に近い北陸自動車道安宅PAに、国・石川県が設置する福井方面出入口のETC専用IC（スマートIC）について、平成20年2月から約6か月間、効果を検証するため、石川県等と連携して利用を促進

○事業内容

・福井県、石川県および国が連携して広報PRを行い、利用を促進

○改善効果 所要時間約5分短縮（福井市中心部～小松空港）
（現行約50分 → 45分）

3 予算額	(1)	6,180千円
	(2)	6,000千円

⑨ 高校生バス利便向上事業について

担当課：総合政策部総合交通課

1 背景

県内の高校生約2万5千人のうち、約5千人が地元の市町を超えて遠距離通学をしています。なかでも、約1千5百人の生徒は、バスだけが公共交通による通学手段となっています。

この約1千5百人のうち、実際にバスで通学している生徒は2割程度ですが、これは通学時間帯に適した運行ダイヤやルートになっていないことが主な原因です。このため、保護者による送迎や貸切スクールバス通学で対応しているところもあります。

通学バスを利用しやすくするためには、3地域(福井市西部地域、越前町、池田町)について増便やダイヤ改正などの改善を行う必要があります。

2 内容

(1) 福井市西部地域から福井市内への通学バス

- ・通学に合わせてルートを変更した通学快速便の増便

(2) 池田町から越前市・鯖江市内への通学バス

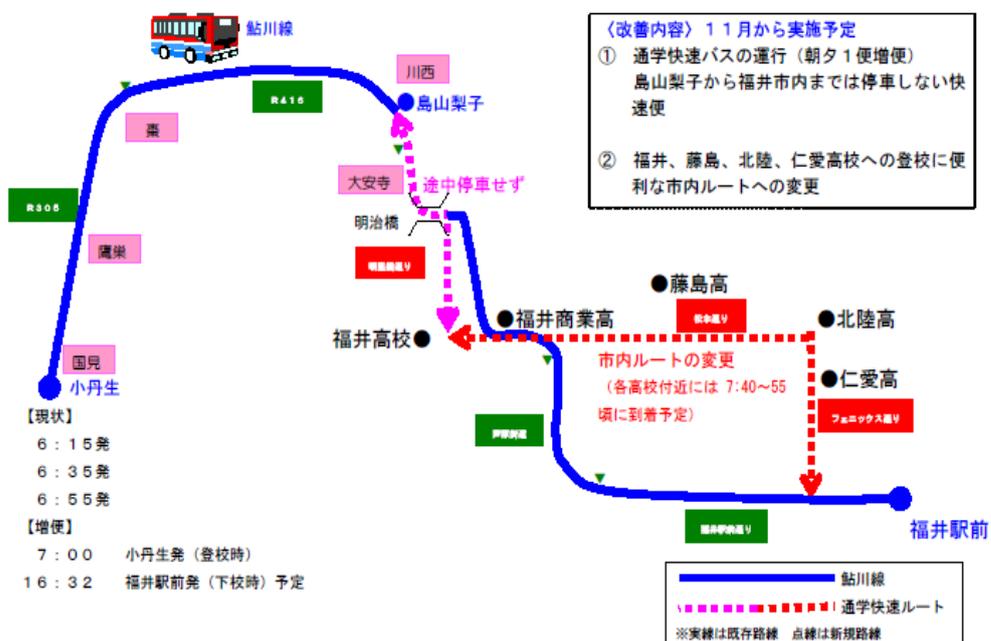
- ・通学に合わせてルートを変更(池田線)
- ・2市の高校等への巡回バスの運行実験を実施(朝夕1便)

(3) 越前町から越前市・鯖江市内への通学バス

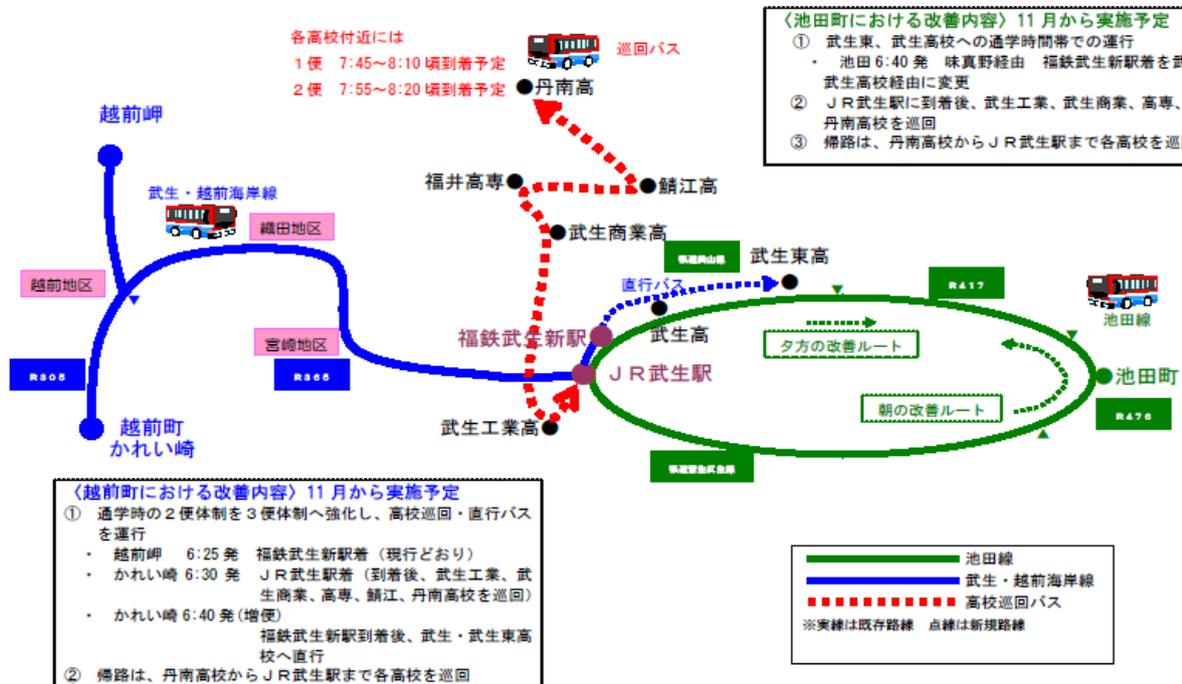
- ・バスを増便(武生・越前海岸線1便)
- ・2市の高校等への巡回バス(朝夕1便)・直行バス(1便)の運行実験を実施

3 予算額 7,587千円

福井市西部地域からのバス通学利便向上内容(京福バス 鮎川線)



池田町、越前町からのバス通学利便向上内容（福井鉄道バス 池田線、武生・越前海岸線）



新「ふるさと貢献」寄付促進事業について

担当課：総務部男女参画・県民活動課

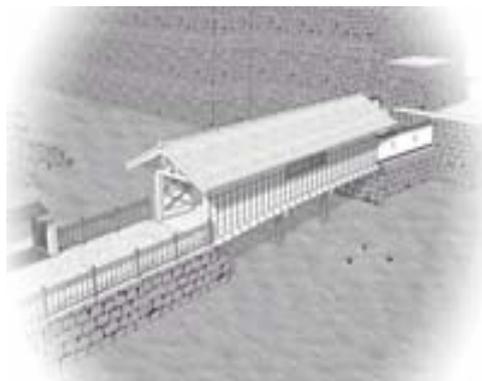
1 背景

自分のふるさとに貢献したいという思いを納税の形で実現する方策について、国も「ふるさと納税研究会」を設置し、報告書を取りまとめるなど平成20年度税制改正に向けて検討が進められています。

この「ふるさと納税」をはじめ、県民や県出身者の方々がふるさとの地域づくりを様々な形で応援していただくことは、地域の活力にとって大きな力となります。

こうした活動を広げるため、本県の「ふるさと貢献」のメニューをまとめた「ふるさと福井応援サイト」を県ホームページに開設し、寄付の申込みがインターネット上でできるようになりました。

これまでのように県庁まで申請にお越しいただくことなく、専用の納付書や口座振替による寄付ができるようになりました。



ワンコインで御廊下橋の復元

2 内容

子どもから高齢者まで、ふるさとに貢献していただける方々を広く募集し、福井を応援しようという気運を醸成

(1) ふるさと福井応援サイトの開設（9月21日～）

- ・県民や県出身者への寄付を呼びかけ
- ・インターネット上でクレジットカードでの寄付制度を導入（12月を予定・全国初）
- ・福井の魅力発信や共働事業への参加を募集

(2) 「ふくいふるさと債」の発行（10月31日）

- ・国債より低利で県民参加型県債を発行（10億円）
- ・県内外の個人・法人を問わず募集（募集期間10月16日～26日）
- ・金利差分を活用し、「日本一の子育て応援システム」などを推進

※これは予算を伴わずに実施する事業です。